

東京六甲クラブ会員の皆様、神戸大学卒業生の皆様

今年度第4回目の「特別火曜会講演会」（51年卒当番幹事団による企画・運営）のご案内です。9月の全国防災月間に合わせて、下記の内容にて開催します。

防災月間で忘れてはならないのが火山噴火による災害への備えです。とりわけ富士山については、気になる情報が増えつつあります。そして、この富士山噴火より遥かに巨大なカルデラ噴火が縄文時代にあったこと、また、我が神戸大学の海洋底探査センターが、九州南方でその巨大カルデラの海底探査を行った結果、その噴火規模が、国内最大規模であったことを証明したことをご存知でしょうか。

今回は長年、火山の地質学研究に取り組み、その海底探査プロジェクトにも参画された神戸大学海洋底探査センターの鈴木桂子客員教授をお招きし、「日本の火山噴火の実情 — 巨大カルデラ噴火から富士山噴火まで」と題して、ご講演頂きます。火山国日本の噴火事情とその防災への理解を深めませんか。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

記

1. 日時：2025年9月16日（火）18:00～19:20 講演会終了後、懇親会 20:30終了予定
2. 場所：東京六甲クラブ（有楽町電気ビル南館地下1階/アクセスは以下のURLをご参照ください）
<https://www.rokko-club.jp/access/index.html>
3. 講演テーマ：「日本の火山噴火の実情 — 巨大カルデラ噴火から富士山噴火まで」
4. 講演者：神戸大学 海洋底探査センター 客員教授 鈴木 桂子

5. 「鈴木先生からのコメント」

日本列島には111の活火山が存在し、さまざまな火山噴火を経験して来ました。過去には、雲仙・普賢岳（火砕流で43名が犠牲）、御嶽山（58名が犠牲）、霧島新燃岳、北海道有珠山などが噴火し、大きな災害を引き起こしました。日本人にとってシンボリックな富士山は、立派な活火山ですが、江戸時代の噴火以降300年間、活動していません。宝永噴火の前には東南海地震が発生しましたので、南海トラフの地震と噴火の関係も気になります。富士山噴火の被害想定では、“逃げ遅れゼロ”を目指す新避難計画が示され、地域ごとの普及啓発にも力を入れるようです。富士山は今後どうなるのでしょうか？

一方、過去に遡ると日本全土に被害を及ぼすような超巨大噴火（通常の大噴火の1000倍の規模）も存在します。7300年前の九州南方の鬼界カルデラ噴火では、九州南部の縄文文化が一掃され、火山灰は関東北部まで到達しました。今回の講演が、日本に将来発生する様々な噴火現象にどのように対処するべきかを考える機会になれば幸いです。

6. 「鈴木先生の略歴」

神戸大学自然科学研究科博士課程を終了後、日本学術振興会奨励研究員、学習院女子短期大学非常勤講師、日本学術振興会特別奨励研究員を経て神戸大学理学部に勤務、専門は火山地質学。1991年の雲仙・普賢岳噴火や2000年の北海道有珠火山の観測に参加。2016年からは神戸大学海洋底探査センターにて、海底カルデラの研究を行った。神戸大学退職後は、同センターの客員教授としてカルデラ火山の研究を続けている。

◎ご参加の方は、9月10日（水）までに下記から参加登録をお願いします。

①クラブ参加

参加料@4,000 円(ビジター@5,000 円)。事前予約必要。申込はこちらから。

<https://forms.gle/gpgb6sUFhN9qSVWT6>

② ZOOM 参加

参加料@1,000 円。申し込みはこちらから。

<https://tokukayoukai20250916.peatix.com>

- ・初めて申込サイト「Peatix」を利用する方の登録方法は以下の通りです。

https://www.rokko-club.jp/data/peatix_ver1.pdf

- ・申込が上手く登録出来ないときは、お名前に、卒年・学部を添えて、ZOOM 参加と明記の上、クラブ宛にメール返信にてお願いします。

tokyo@rokko-club.jp

尚、第5回目の「特別火曜会講演会」は、10月21日（火）18時から「ゴルフの魅力 — ゴルフは健康長寿に役立つ」をテーマに開催しますので、次回も宜しく申し上げます。

東京六甲クラブ・野崎/鶴原